



川口市立在家中中学校 川口市大字安行領在家272番地
048(295)4102 FAX 048(295)5661
URL <http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/zaike-j/>



・心身ともにたくましい生徒
・自ら進んで学ぶ生徒
・豊かな情操を培う生徒

今、『命』について考える

校長 鈴木 玲

9月1日、42日間の夏休みを終えて令和4年度の2学期がスタートしました。夏休み中、事件や事故、自然災害など、『命』について考える機会が何度かありました。新たな学期のスタートにあたり、今一度、みなさんに『命の大切さ』を考えてもらおうと思い、谷川俊太郎さんの詩を紹介します。

未来へ

谷川俊太郎

道ばたのこのスミレが今日咲くまでに
 どれだけの時が必要だったことだろう
 この形この色この香りは計り知れぬ過去から来た
 遠く地平へと続くこの道ができるまでに
 どれだけのけものが人々が通ったことだろう
 足元の土に無数の生と死が埋もれている
 照りつけるこの太陽がいつか冷え切るまでに
 目に見えないどんな力が働くのだろう
 私たちもまた その力によって生まれてきた
 人は限りないものを知ることができない
 だが人はそれを生きることができ
 限りある日々の彼方を見つめて
 未だ来ないものを人は待ちながら創っていく
 誰もきみに未来を贈ることはできない
 何故なら きみが未来だから

私が今ここにいるのは、この『スミレ』の花のように過去から続く「家族の歴史」があるからです。私という人格は、この『道』のように たくさんの人たちが私の成長に関わることでつくられました。『太陽』がその寿命と引き換えに私たちの〔生〕に『目に見えない』力を与えてくれているように、私たちも、日々なかなか気づくことのできない人やものの〔おかげ〕で生きているのです。

過去や未来、この世の全てを知ることではできませんが、自分の限りある人生を見つめながら、私たちはその中で精一杯生きることができるのです。そして、自分の未来は誰かが用意してくれるものではなく、自分自身が創っていくものなのです。私たち = 未来なのです。

私は、この詩をこのように解釈しました。

今まで、そして今、自分に関わる多くの人々。その多くの人々の思いは見えづらい時、感じづらい時もありますが、今もみなさんに向けられ、やわらかく包み込んでくれています。みなさんは決して一人ではありません。みなさんを大切に思ってくれる人は必ずいます。

みなさんは「生かされている」のではなく、自分自身の力と意志で「生きている」のです。確かに、自分の意志とは関係なく幸福や不幸がやってくることも事実です。しかし、自分の未来は自分で創っていくことが「できる」のです。

生命には自分の力と意志が存在し、未来は与えられるものではなく自分で創るのだとしたら、自分という存在を大切にし、同じように他者も大切にしなければいけないのではないのでしょうか？